卒業論文

地元就職を選ぶ大卒の若者たち

――広島県出身者の語りにみる選択理由――

2019 年度入学

九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

1LT19146E　安本祥子

2023 年 1 月提出

要約

わが国では、東京一極集中の構造があり、地方からの人口流出が問題となっている。20代前半において、都道府県間移動率や地方の都道府県からの転出超過率が高いことから、大学卒業後の就職時における大卒層の移動が、地方からの人口流出に大きく関わっているのではないかと考えた。一方、高学歴層ほど都道府県間移動率は高いが、それは長期的には低下傾向にあり、大卒層の地元就職傾向は強まっていることも指摘されている。なぜこのような大卒層は地元就職を選ぶのだろうか。本研究では、この問いについて取り組むこととした。

まず、日本の地域移動の現状について概観し、そもそも本当に大卒層の就職時の移動が地方からの人口流出の主要な部分を占めているのかについて確認した。その結果、当初の想定とは異なり、地方において主な転出のきっかけとなっていたのは、就職よりもむしろ進学であった。しかし、進学で県外に出てもおよそ半数は初職時に U ターンしてくることを踏まえると、結局のところ就職時の選択まで踏まえる必要があることから、就職時に着目することは妥当だと考えた。ただし、その場合にも進学時の地域選択が就職時の地域選択に大きな影響を与えることを考慮すべきであることから、本研究の調査では、「地元定着」層と「U ターン」層の両方を対象とすることを示した。

次に、地方出身の若者についての研究、地方に暮らす若者についての研究、地元就職志向についての研究を整理し、これまであまり着目されてこなかった点と、本研究において参考となる点を示した。地方出身の若者についての研究では、進学時や就職時の移動の要因分析は巨視的な視点に偏っていたこと、地方に暮らす若者についての研究では、その対象が非エリート層の不安定な就労にある者が中心であったことが確認された。よって、本研究では、インタビュー調査を用いて、地方出身の大卒層を対象に、地元就職の理由を探ることとした。その際、地方暮らしの若者の幸福の成立条件とされた経済活動上の要因と存在論的要因、地元就職志向の要因として挙げられた公務員志向と親の意向という観点を参考にする。なお、存在論的要因についてはこれまで中心とされていた友人関係以外の関係についての視点も加えることとした。

そして、調査の前段階として、調査対象者の出身地域である広島県の転出入をめぐる現状を概観した。広島県は転出超過率が全国的にも高いが、一般に転出の多い 10 代後半と 20 代前半における転出超過は比較的抑えられているという特徴があった。これについては、

地方都市である広島には大学や大企業が比較的多いという条件があることが関係していると考えられた。一方、それでも進学時や就職時に県外に出ることを希望する場合には、広島県にはない大学や企業、業種・職種を希望するケースや、親元から離れることを望むケースが多く見られた。このことから、本研究の調査では、地方都市である広島においても、県外に出たいという希望につながり得る「やりたいこと」志向や親元から離れたいという志向の有無にも着目すべきだと考えた。

調査は、大学卒業後広島県で働くことが決まっている 3 人の大学 4 年生を対象として実施した。その結果、3 人の語りから見られた地元就職の理由は、大きく 4 つの要素に整理された。それは、その地域の居心地のよさ、就職活動のしやすさ、親の意向、教員（地方公務員）志望である。また、3 人においては、地方都市である広島を「わざわざ」出る理由につながりやすい、親から離れたいという志向と「やりたいこと」志向が地元就職を妨げなかったことも示された。これらのほかに、対象者から直接地元就職の理由として挙げられなかったものの、地元就職という選択を大きく後押ししていた要素も見出された。それはすなわち、現在の交際相手が地元に残る／戻るということであった。交際相手の地域選択が影響力を持っているのは、その相手との結婚を望んでいたためであった。そうした思いは、独身へのネガティブイメージ・家族形成へのポジティブイメージと、現在の交際相手との関係を強固なものにしたいという願望に支えられていた。

本研究における調査対象者は、他の地域に出ることも可能であったが、様々な要因が重なった末に、相対的に都合の良い地元就職を「選んだ」者たちであった。こうした層は、安定しているだけに、親や地元の友人に固執する必要はなく、特に本研究の対象者においては家庭を大事にしたいという思いも強いことから、結婚や配偶者の転勤を機に移動することには抵抗がない。よって、必ずしも今後も地元に留まり続ける層とは限らない。その一方で、家庭優先志向が、仕事選びでは「やりたいこと」を優先させないために都市部での就職の必要性を減じさせるという形で、地元就職という選択を間接的に支えていたケースもあった。こうした家庭を大事にしたいという思いは、たしかに将来的な移動の可能性を高めることにもつながるが、就職時において地元を選択させやすくすることにもつながっていた。

目次

1　はじめに 1
2　日本における地域移動の現状 3
2.1　日本における都道府県間移動 3
2.2　地方圏における転出入 5
2.3　地方出身者の転出 6
2.4　進学時・就職時別の地元残留割合 7
2.5　小括 8
3　先行研究 10
3.1　地方出身の若者についての研究 10
3.2　地方に暮らす若者についての研究 11
3.3　地元就職志向についての研究 12
3.4　小括 13
4　広島県の転出入をめぐる現状 15
4.1　広島県の転出入 15
4.2　広島県の大学進学をめぐる状況 16
4.3　広島県の就職をめぐる状況 19
4.4　小括 21
5　調査の概要 23
6　インタビュー要約 24
6.1　地元定着者（地元進学・地元就職者）の語り 24
6.1.1　A さんの語り 24
6.2　U ターン者（県外進学・地元就職者）の語り 27
6.2.1　B さんの語り 27
6.2.2　C さんの語り 30
7　考察 33
7.1　対象者によって語られた地元就職の理由 33
7.1.1　居心地のよさ 33
7.1.2　就職活動のしやすさ 34

7.1.3　親の意向 35
7.1.4　教員（地方公務員）志望 36
7.2　県外を選ぶ理由につながる２つの志向と地元就職 37
7.2.1　親元から離れたいという志向との関係 37
7.2.2　仕事における「やりたいこと」志向との関係 38
7.3　現在の交際相手との結婚への志向 40
7.3.1　独身／家族形成へのイメージ 41
7.3.2　現在の交際相手との関係の強化 42
7.4　小括 43
8　おわりに 45
［注］ 47
［文献］ 49
謝辞 54